

令和7年度 『みかわ^{さい}彩発見 絵画コンクール』表章式 児童代表のことば

令和8年2月8日（日）三河教育会館にて

【「春・夏の部」代表：小6最優秀賞】

岡崎市立^{はね}羽根小学校 6年 ^{きたざわ}北澤 ^{こはる}心桜 さん

「一心泣き相撲」の絵を描いた理由は、以前ニュースでこのお祭りを見たときに、おもしろいなと思っていたからです。一つの作品の中にいろんな表情の人たちを描いてみたいと思いました。

苦労したことが二つあります。一つめは、赤ちゃんを主役にしたけれど、大きな力士や泣かせ役の行司、周りではほえんでいるお母さんたちを、すべて描きたいと思ったので、構図に苦労し何度も描きなおしました。二つめは、小さな赤ちゃんが元気よく泣いていた姿を、どのように描けば伝わるか悩みました。赤ちゃんの顔だけを赤くすることで表現できたかなと思います。



【北澤さんの作品】

私は絵を描くことが大好きです。これからも絵を楽しむために、苦手な色塗りに力を入れていきたいと思います。

ありがとうございました。

【「秋・冬の部」代表：小6最優秀賞】

西尾市立^{にしのまち}西野町小学校 6年 ^{つぼい}坪井 ^{ぜん}然 さん

ぼくは、6年生最後に最優秀賞をもらえて、とてもうれしかったです。1年生のころから「みかわ彩発見」に参加し続けてきて、いちばん最初の絵も、もちつきでした。

ぼくの家族は、毎年じいちゃんの家でもちつきをしています。もちつきをしている家は少ないと思うので、もちつきの楽しさを伝えたくて、この絵にしました。



【坪井さんの作品】

きねを持ったとき、とても重くて大変ということを描いて表現したり、きねの先に少しでもちをつけたりと工夫しました。

これからも、絵を描くことも、もちつきも続けていけたらと思います。ありがとうございました。